

# 2021年度

## 学校推薦型選抜・社会人選抜

### 試験問題

#### 注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 用紙は試験問題1枚、解答用紙1枚の合計2枚です。
- 3 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 4 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があります。  
※解答開始の合図の直後に必ず記入してください。
  - ① 氏名欄
  - ② 受験番号欄
- 5 解答は、黒の鉛筆またはシャープペンシルで解答用紙に記入してください。問題用紙の余白部分は下書き等に使用しても構いません。
- 6 試験時間は90分です。
- 7 試験終了後、問題冊子は回収しますので持ち帰らないでください。

次の文章は、今年（二〇二〇年）七月三〇日に96歳で亡くなった、とやましげひこ外山滋比古さんの『省略の文学』「理解と誤解のあいだ」（一九六八年）の一節です。この文章を読んで、後の問いに答えなさい。

科学技術は一貫して人間の能力の肩代わりをする機械の創造を目ざして進んでいる。はじめは、人間に代わって肉体労働をする機械が開発されたが、やがて、頭脳の作業をすることのできる機械が生まれるようになった。そして、人間でなくてはできないと思われていた作業が次々に機械によって行なわれるに至って、われわれは人間の能力の再認識をせまられているのである。新しい技術文化は新しい人間観の確立を求めらる。

機械にとって代わられようとしているという能力のうちで、最も注目されるのが、記憶、複写、模写、そして計算である。近年まで、これらはすぐれて人間の能力と考えられていたが、コンピュータの発達が事情を一変させてしまった。計算はもちろん、記憶までできる機械の出現に、人々は不安な驚きを感じている。しかも人間よりはるかに正確に迅速に計算し、一度記憶したものは永久に忘れない。人間はこういう点ではどうもコンピュータにかなわない。

複製文化については、蓄音機、ラジオ、電話、テレビ、テープレコーダーなど続々と新しい技術的装置が日常生活の中へ登場してきた。対象のあるがままをとらえる技術は、人間の能力の遠く及ばないところまで発達してしまっている。現代文化は技術によるコピー文化であるということもできるであろう。

人類の歴史の大部分は、模写再現の技術としては文字と絵画しかない時代だったから、人間にとって再現技術は重要なもので、広義のリアリズムが人間文化の方向を規定していた。人間の記憶という再現能力が、不安定なものだからこそ正確な記憶が社会的にも高く評価されたのである。学問や教育も記憶に基礎をおいたものになるのは自然であった。ところが最近のようにコピー技術が急激に発達すると、なにも人間が非効率な再現のために苦勞することはないことがはっきりする。人間は機械のできないことをすればよい。これは近代文化の命題であるが、改めてこの命題にたちかえり、新しい人間の活動を探求するのが今日の問題である。

教育というものは元来、保守的であるから、新しい時代に適応するのにいつも遅れがちになるが、まだ人間をコピー的活動から解放しようとはしていない。相変わらず記憶中心の知識の詰め込みを行なっているが、それは、人間が記憶する唯一の機械であった時代の要求に基づいた教育そのままである。Aを教えて試験をし、答案にAそっくりそのままが再現できていれば、教えたことが理解できているとして満点になる。

学校でこういう教育を受けると、三つ子の魂百までというが、理解とは記憶と再生のことだと思いきや、もちろんそういう理解もないではないが、それは機械的理解で、コン

ピュータの方が人間よりずっと能率がよい。記憶と再現を中心とした理解は、たとえていえば食物を食べても消化しないでそのまま吐き出すようなものである。忘れたり記憶違いをすることを恐れるから、いわゆる一夜漬勉強がもっとも効果をあげる。機械的理解、丸暗記である。これに対して、食べたものをすっかり消化してわがものとし、必要なもののみ残して、不要なものを排泄してしまうような理解は、機械にはできない作業である。教えられたことをそのままオウム返しに答えるような理解から、自己の骨肉にはするが、はっきりした形にならない深化した理解に目を転ずるべきである。

理解という言葉で人々がまず頭に浮かべるのは機械的正解のことであろう。そしてそういう理解が人間にしかできないと考えてきたが、それが実は迷信であったことが、近年の科学技術によって証明された。本当に人間にしかできない深層の理解は、完全な記憶・再生を正解と呼ぶならば、多かれ少なかれ「誤解」となるはずである。

しかし、長い間の慣習が人々にいだかせている誤解恐怖のために、理解の本質の認識が妨げられており、それが社会的混乱に輪をかける結果になっている。誤解を頭から悪いものとしないうでそこに含まれる人間性を認めるならば、すぐれた人間の理解はすべて誤解的であるということとはただちに明らかになるし、それにはコンピュータがまったく無力であることも了解されるであろう。

問一 本文を二〇〇字以内で要約しなさい。

問二 本文を読んで、人間的理解と機械的理解について、自分で考えたことを八〇〇字

以内で述べなさい。